

# UNIVER-CITY 柳ヶ瀬



柳ヶ瀬の来し方と行く末

## 岐阜市街地の新たな様相

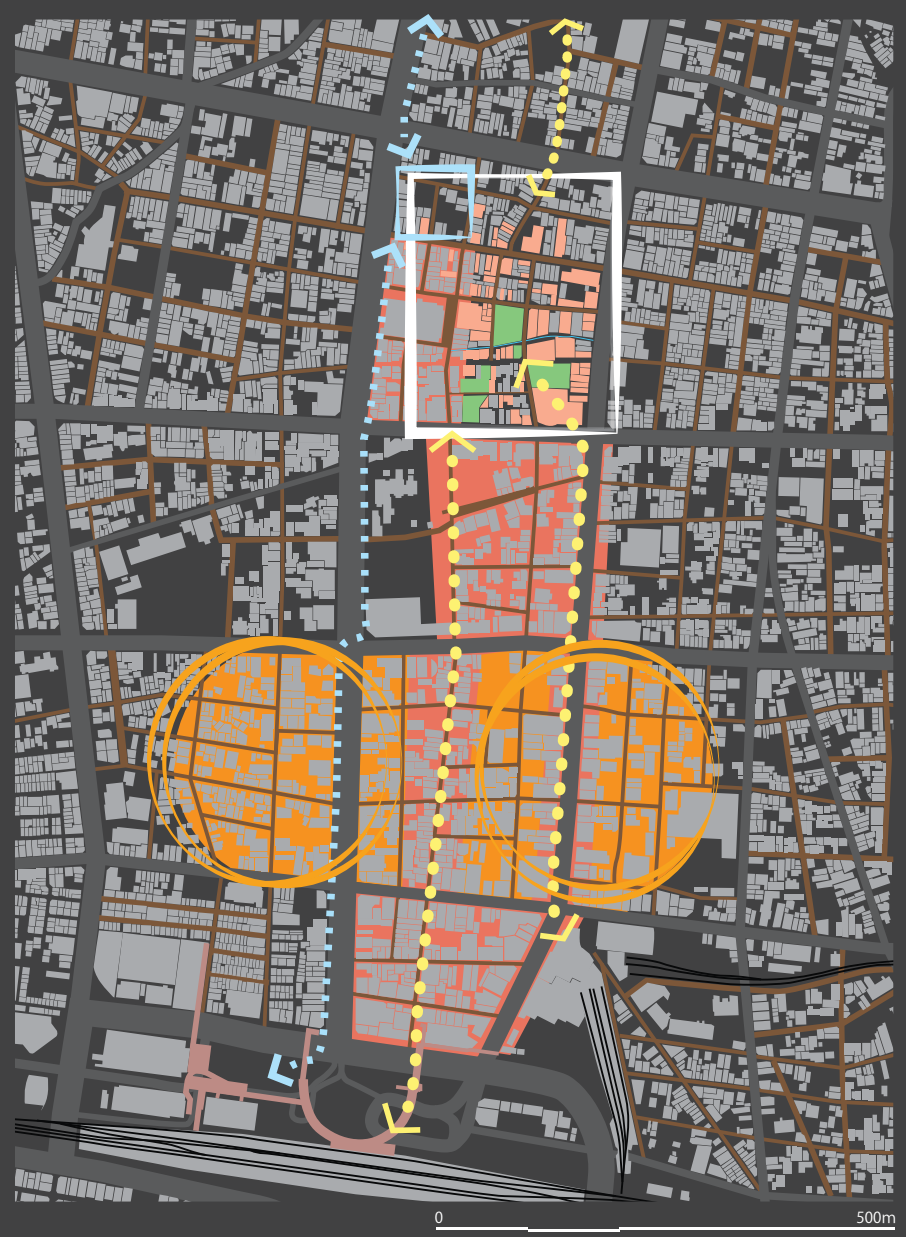
大学関連施設の配置される区画  
長良橋通・金華橋通・若宮町通・徹明通に囲われた中に、岐阜大学の教育研究施設が配置される。

学生の主要動線  
JR岐阜駅からは玉宮通を、名鉄岐阜駅からは長良橋通を經由する。司町のぎふメディアコスモスが至近距離になり往来が盛んになる。

自転車専用道と駐輪場  
岐阜大学柳ヶ瀬キャンパスから柳ヶ瀬および岐阜駅に至る自転車専用道を建設し、エコで快適な移動を可能にする。駐輪場は柳ヶ瀬通と金華橋通のなす区画に市営の大駐輪場を設ける。

商業重点近隣  
玉宮通を軸として、増加する学生需要に対する商店を展開する近隣地区。

賃貸住宅重点近隣  
柳ヶ瀬地区と岐阜駅の間、賃借住宅（主に学生下宿）が展開することを見込む近隣地区。



## 街に散らばる大学の教室

市街地の核となるモノとして岐阜大学を埋め込む。

岐阜大学としては、市街地を教育現場することで、旧帝大などとは異なり、地域に根差した産業や人材を育成するような真に地方大学としての特徴を出すことができ、市街地としては、学生の生活が定着することで活気を取り戻すことができる。

従来のような囲われた大学施設を開発するのではなく、カルチャータンやポロニヤの大学のように、街並みの中に大学施設を分散させる。講義室・演習室・ミーティングルームを既存の建物や空きフロアへ配置して、中心市街地の積極的な用途混成を狙う。

街の空間構成には、人の居場所・交流の場所を創出するが、基本構成は現状のものを使用する。大学施設が分散したテナントとして積極的に街に展開。学生と地域住民のコミュニティ形成など、内発的なまちづくりが期待できる。

### 都市として岐阜に必要なこと

- ・文化発信による他都市との競争力
- ・中心市街地としての人の集積
- ・刹那的な消費活動に終わらない持続性のある滞留と交流
- ・都市全域からの容易なアクセス

### 地方大学として岐阜大学に必要なこと

- ・地方大学として豊かな教育研究の場
- ・学生相互あるいは社会との交流の場
- ・講義演習時間以外の学生の居場所
- ・知の開示・社会貢献の機会

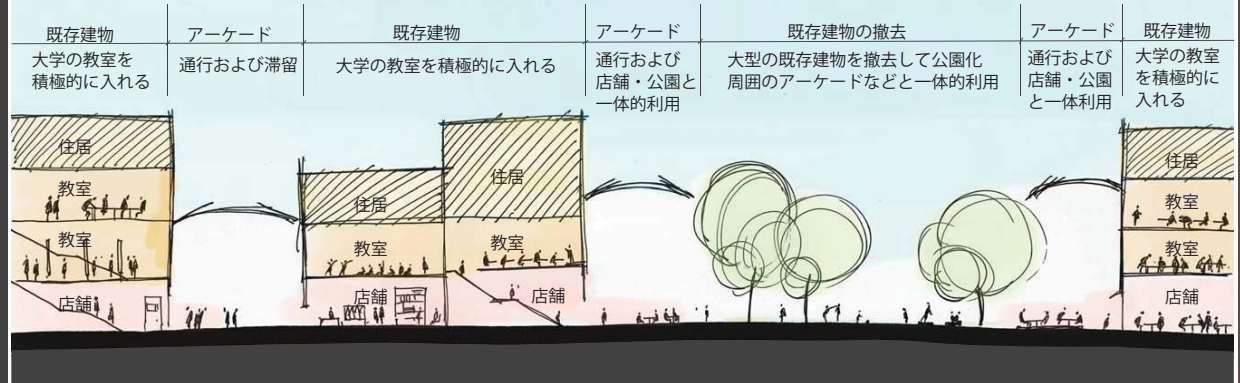
解決される問題 過去の運営方法を脱却できずに不活性に陥っている現状市街地との距離的断絶により大学が社会から閉ざされる問題

### 本提案の主なメニュー

1. 岐阜大学の教室・演習室・ミーティングルームを市街地の建築物の中へ、部屋単位で移設する（賃貸契約とする）。同じ建物の中に住居（下宿も含む）や店舗が同居する状態が望ましい。
2. アーケード街路網は現状を維持して車両の通過交通を排除する。歩行者の経路を確保して区画内の移動を融通する。
3. 学生の居場所（市民の居場所でもある）を積極的に確保するため、市街地の内部に小規模な緑地・スクエアを建設。これらは学生や買い物客の主要な動線となるように配置する。

### 上記に従属するその他の施策

- a. 岐阜大学カリキュラムを調整し、現在の柳ヶ瀬キャンパスで行うべき授業（体育・実験・実習系など）を集約した曜日と定め、他は全て柳ヶ瀬で実施する。
- b. 分散した教室を効率よく案内する ICT の整備を行う。
- c. 柳ヶ瀬と柳ヶ瀬の間のアクセスを容易にする（専用バス・自転車専用道など）。



### 遊郭都市として

明治21年、当時の市街地と鉄道駅の間にあたる郊外に、町人によって「金津遊郭」が建設される。これを財源に市区改正が進み、遊郭門前に柳ヶ瀬通ができる。

### 都市計画の中心に

金津遊郭と柳ヶ瀬は新市街地の中心となる。明治40年代以降に建設された電気軌道は、ここを起点に周辺地域へ展開される。都市計画もここを中心に計画された。百貨店や劇場が次々と設けられ、スラン灯の輝く一大繁華街となる。

### 戦後の復活・最盛期

一旦は空襲により焼野原となり、遊郭も失われるが、終戦直後から復興ははじまり、街路網が整えられて、再び数々の劇場を有する繁華街へ再び吹き、アーケードが全面的に整備されるに至る。名古屋をはじめ広い地域から観光客を集め、柳ヶ瀬通は人で路面が見えないほどだった。

### 求心力を失い「シャッター商店街」に

バブル崩壊後、大型商業施設が相次いで閉店。市内電車は廃止される。岐阜大学付属病院は司町から柳ヶ瀬キャンパスへ統合移転。何らかの求心力を持ち続けてきた柳ヶ瀬一帯のまちは、いつの間にか明確な核を失っていた。閉店した商店が並ぶシャッター商店街となってしまった。

### そして大学都市へ

新たな求心力として大学とそれに伴う学生の生活を位置づけて、新たな都市像を提案する。

大学の課外時間にまちへ出る学生があふれるようになる。下宿学生、再び集積する商店の利便性を求めて都心居住を求める市民などが、中心市街地に増加。

要所にスクエアが設けられるために、空間に余裕のある新しい文化都市が形成され、他都市に対する強い競争力を有する岐阜となる。

